

～ All for one, One for all. ～

光 の 家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 191 号 —

2017 年 4 月 25 日発行

わたしたち強い者は、強くない者たちの弱さをになうべきであつて、自分だけを喜ばせることをしてはならない。わたしたちひとりびとりは、隣り人の徳を高めるために、その益を図つて彼らを喜ばすべきである。

ローマ人への手紙

第一章 一～二節



満開の桜をバックにバンザイ!! (神愛園)

会報 五言

- 一. 力が愛なりとは言わぬが、愛より大なる力はないと信じる。愛こそ人を動かし、人を育む。
- 一. 他者への愛ある処にこそ喜びあり、希望あり、幸せあり、生きる力が育まれる。
- 一. 自分の一生を何に捧げるか。これ一生の問題なり。どんな自分を捧げるかも重要な問題。
- 一. 天職を見出す人は幸いなり。その天職は多くの場合、現在の足元にあり、今、従事している仕事の中にある。
- 一. 善き伝統も善き制度もこれを創りあげるには多くの汗と涙と祈りを要す。

静かに守り支える大きな力

社会福祉法人東京光の家 理事 篠崎 友照



花の上の白雲の上の天青し

これは日口戦争に反対し、生涯非戦論をつらぬいた内村鑑三に聖書を学んだ俳人室賀文武が、恩師の霊に献げた句ですが、この美しい光に満ちる世界に生まれながらそれをまったく見ることのできない人がいるのはなぜでしょうか。目の見えない人とその家族にとつてこれほど不可解な悲しいことはありません。あるときM子さんの母親が心の奥に秘めてきた悲しみをそつと打ち明けてくれました。「先生、わたしがこれまで生きてきて一番つらかったのは、娘か

ら『母さん、どうしてわたしを目の見えない子に生んだのよ。』と言われたときです…。」

あんま・マツサージ科を卒業して盲学校を後にしたM子さんが生きるようになった道は忍耐力の限界をこえてしまったのです。障害をもつ自分を愛し、必死に生きてきている母親、それが痛いほどわかっているだけに、これだけは言つてはいけないと心にきめていたことを母親に言つてしまったM子さん。娘以上にとこのなんともならない重い悲しみを身に負つて懸命に生きてきて、娘からこの言葉を聞かされ、深く傷つきながらも、なおいのちの限り娘のために力をつくして生きていく母親。

複する子らを担当していたときです。この子らが卒業後安心して生きていける施設を探すために、東京光の家を訪ねたその日の驚きを忘れることができません。応対してくださった秋元梅吉先生（生まれつき盲目で内村鑑三に聖書を学んだことによつてこの東京光の家を創立された方）が七七歳の高齢にもかかわらず、寮生の具体的な問題に全力をつくしておられるお姿に接し、感動・驚愕したのです。

その後、現理事長田中亮治先生（内村鑑三に聖書を学んだ石原兵永に師事したキリスト者）のおかげで入所させていただいた卒業生たちの変身ぶりにはさらに驚愕しました。盲学校では肩を細めていた子らがみんな自信に満ちて堂々と生きる人になつていたからです。

なにがこの子らをこのように見事に変えたのか、その秘密を身をもつて知りたいたいと思ひ、田中亮治先生にお願いして東京光の家に転職させていただいたのは四〇年前です。現場で働いた期間はわずかでしたが、きょうまで役員のみ末席に連ならせていただくことでその秘密は、東京光の家には人間の働きをはるかに越える大きな力が満ちていて、その力によつて東京光の家は生まれ、導かれ、支えられてきて、入所者が良き職員の働きによつてどんなに喜びと安らぎの中でその人生を守られてきているかを知ることと確信させていただけました。

東京光の家は二年後、創立百周年を迎えますが、この大きな力に信頼し守り支えられていくとき、このなんともならない危険と不安いっぱいの世界も、わたしたち一人ひとりの人生も、じつは静かに働くこの力によつて守り支えられていることを証ししていくかけがえのない福祉施設として働いていくものと信じています。

平成二八年度 締めくくりの会

平成二九年三月二日～二八日



光の家就労ホーム「結の会」ソーラン節の活気ある踊り！



光の家新生園「納め会」友情をテーマに演じました



光の家神愛園「感謝会」替え歌で一年を歌いました

今年度も東京光の家の四つの施設が年度末行事である「締めくくりの会」を開催しました。式典では、石渡常務理事・各施設長からの式辞、招待者のご挨拶の他、この一年がんばった利用者の表彰や成果発表、訓練修了の報告等が行われ、その

後の会食では美味しい昼食を食べながら、音楽や演劇等の企画で楽しい一時を過ごしました。

みより多きこの一年を、出席者全員で感謝を持って振り返り、皆の心が結ばれてゆく、今年もすばらしい年度の納めの会となりました。



光の家栄光園「みのりの会」音楽クラブによる演奏



創立者について語る田中理事長

今年の追悼集会では、昭和三七年七月一七日に行われた創立者秋元梅吉の「義なる救い主を信ずる信仰」と題した講話の録音を聴きました。

創立者の声を直接聞いたことがある職員が田中理事長を含め少数になつてきている中、力強く集会参加者に語りかける秋元先生の声を、参加者全員で聴くことができ、また今年も創立者の精神を受け継いでいくことができました。

第四二回 創立者

秋元梅吉追悼集会

平成二九年二月八日(水)
会場：東京光の家 講堂

光バンド演奏会

子供たちの笑顔に包まれて

平成二九年二月三日(火) 会場：三鷹市立井口小学校 体育館



演奏前に紹介される光バンド



光バンドの演奏を聴く井口小の生徒達



全校生徒が立ち上がって光バンドと一緒に『ピリープ』を歌う様子

光バンドが小学校で演奏会をするのは約二年振りの為、演奏会の依頼を頂いてから、メンバーと職員で、小学生が喜んでくれる曲を考えて練習をしました。

当日は井口小学校の体育館に全校生徒が集まった中、代表の生徒がメンバーを手引きして入場し

ました。子供たちは光バンドがどんな演奏をするのかをとっても真剣な眼差しで迎え入れてくれました。演奏が始まると子供たちは拍手をしたり、大きな声援を送ってくれたので、メンバーは気持ちよく演奏をする事が出来ました。最後は光バンドと井口小

のみんなで『ピリープ』を歌いとても盛り上がりました。

後日、井口小学校の子供たちから感想文が届きメンバーにも読ませて頂きました。「目が見えないのにすごかった!」「感動した」「また来てほしい」等々子供たちの素直な言葉を頂き、メンバーは子供たちに一生懸命演奏した事が伝わり、とても喜んでいました。

これからも光バンドは皆様に感動を与えられるように頑張っていきますので応援をよろしくお願ひします。

花見に行きました

平成二九年四月三日(月)
於：旭が丘中央公園



桜の花に触れながら匂いをかぐ利用者達

光の家新生園の利用者は春をみつけに、旭が丘中央公園まで散歩にでかけました。利用者達は桜の花を目で楽しむことはできません。しかし、桜のつぼみや花を触ったり、香りを嗅いでみたりと、それぞれの方法で春をみつけることができました。



見えないアイマスク体験にドキドキ！

日野市立第五小学校四年生九四名が、体験見学として東京光の家を訪問しました。体験の内容は、アイマスク体験と、サウンドテーブルテニスの体験でした。

アイマスク体験では小学生どうしがペアとなり、一人が視覚障害者役、そしてもう一人が介助者となり、歩行による移動を介助しました。



見えないのに強いなあ～

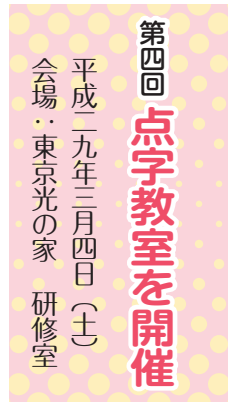
もう一つは、音が鳴るボールをネット越しに転がして打ち合うサウンドテーブルテニス体験を行いました。小学生の皆さんは目が見える状態での対戦でしたが、相手が光の家のチャンピオンという様子もあり、かなり苦戦している様子でした。

短い時間でしたが、視覚障害の世界を理解していただける良い機会となりました。



そっとなぞって指で読もう！

今年も地域貢献活動室として点字教室を開催しました。近隣の小学生を中心に十一名の参加者があり、点字の仕組みの説明の後、実際に点字で書かれた単語を読むことに挑戦してもらいました。みなさん熱心に取り組んでいて、楽しく点字を学ぶことができました。たというところで興味を持っていたことができました。



※ 毎月1日はサービスデー、500円割引

光の家鍼灸 マッサージホーム

真心をこめた施術で、皆さまの健康に奉仕させて頂きます。

受付時間 (電話予約制)
午前九時～午後七時半
定休日 毎週水曜日

電話 ○四二(五八二) 七二〇九

料金

はり	四、〇〇〇円
マッサージ	三〇分 二、五〇〇円
	七〇分 三、八〇〇円
	一〇〇分 五、〇〇〇円

平成二九年度

新任職員紹介

今年も東京光の家に六名の新任職員がやって来ました。まだまだ不慣れですが、利用者の皆さんのために精一杯頑張りますのでよろしく、お願い致します！

光の家神愛園



井岡 哲史
立正大学卒

生活係

光の家神愛園



櫻井 優里子
上智大学卒

生活係

光の家栄光園



篠塚 優香
青山学院大学卒

生活支援係

光の家栄光園



森 枝里子
日本大学卒

生活支援係

光の家栄光園



朽原 映里奈
東京経済大学卒

就労支援一係

総務部



南 絢子
大阪音楽大学卒

庶務係

イオンモール販売

豊田駅前のイオンモール多摩平の森店にて、現在「キッチン&カフェカナン」の主力商品でもあるカナンカレー、チーズケーキ、プリンを販売させていただいております。毎週火曜日には利用者とともに試食販売を行いながら、商品の紹介だけでなくお店の紹介をしています。利用者も地域の方とのふれあいを楽しみながら参加しています。



おいしいプリンいかがですか～？

入所式

平成一九年四月三日（月）：光の家就労ホーム
 平成一九年四月七日（金）：光の家新生園
 会場：東京光の家 講堂

平成二九年度が始まり、今年も光の家就労ホーム、光の家新生園に新たに加わった仲間の入所式が行われました。

光の家就労ホームでは男性三名の利用者を迎えました。五年目を迎えた就労ホームは先輩も増え、同窓会のような盛り上がりも見られました。先輩方の成長に先生も喜び、新規利用者も

光の家新生園では男性一名、女性一名の利用者をそれぞれ迎えました。今年は二人とも緊張しながらも元気な声で、しっかりと自己紹介をすることができていました。先輩方の励ましの言葉と、盛大な演奏で、温かく迎えられることができました。



光の家就労ホーム入所式（新入園生 3 名）



光の家新生園入所式（新入園生 2 名）

新成人を祝う会

平成一九年 月九日（月）
 会場：東京光の家 講堂

今年も成人の日に、新生園から二名、就労ホームから一名の新人を祝う会が開催されました。新生園の利用者が見守る中、しっかりと成人の誓いを話すことができ、大人への第一歩を踏み出すことができました。



新成人となった3名の利用者達

寄付者名簿

平成二八年二月一六日
 二九年四月五日

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 公益財団法人日本財団
会長 笹川 陽平様 | 送迎用軽自動車 一台 |
| 安積 和男様 | 漬物 二kg |
| 北矢 行男様 | 米 二〇kg |
| 亀山 巴さま様 | じゃがいも七kg |
| 南瓜 二kg、小豆 一kg | |
| 黒豆 一kg、長芋 二・五kg | |
| 山崎 郡治様 | みかん 二〇kg |
| 岩井 正義様 | 純子様 人参 一七・五kg |
| 外里 喜三郎様 | 五〇〇g |
| 塩蔵わかめ | |
| シヤケ三kg | いくら一・二kg |
| 船橋 敬様 | 小松菜二九・五kg |
| 小菌江 康様 | 干し芋 一〇kg |
| 土屋 正和様 | 大根 四〇kg |
| 坂本 武様 | いよかん 一二kg |
| 城山鶏園 加藤 奉文様 | 卵 二・六kg |
| 田丸 一雄様 | トマト一・五kg |

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

第二〇回 手さぐりの作品展

平成二九年二月二一日〜二木日
会場：日野市立とよだ市民ギャラリー

一年の集大成の場ともいえる作品展も今年で二〇回目を迎えることが出来ました。

今年、作品展を目標に制作された美術作品以外に、日常の作業訓練の中で作られた特に作品展向けではない作品たちにも

注目し、ギャラリーの床から天井までを活用して、一つ二つの作品が生きるような展示を心がけました。

今年も沢山の方々会場まで足を運んでいただきましたこと、感謝申し上げます。



触って楽しめる陶芸作品！



ビーズの雨にうたれて…



旅行で行った「樹海」を表現しました



アトリエはさながら小宇宙～

〜あとがき〜

春爛漫の好季節、お健やかにお過ごしのこととごさいます。

さて、今回一九一号をお届けさせて頂きました。光の家も新しい園生・職員を迎え、新年度を無事にスタートすることができました。

また、今回の外部寄稿は光の家の篠崎理事にご寄稿頂き「光の家には人間の働きをはるかに越える大きな力が満ちていて、その力に光の家は守り支えられている」というお言葉を頂きました。この大きな力とは「神の愛の力」であることは言うまでもありません。

今年度も光の家の理念である「盲人に聖書の福音を」を大切に、「愛の実践」を行って参りたいと存じますのでこれからも宜しくお願い申し上げます。

(常務理事 石渡 健太郎)

発行 一九一〇〇六五
東京都日野市旭が丘一七七一七
社会福祉法人 東京光の家
電話 〇四二(五八〇)二三四〇
FAX 〇四二(五八〇)九五六八